



排泄ケアのBCP対策できていますか？

今年も1月1日の能登半島地震に始まり、7月の東北地方の豪雨災害、そしてコロナの再拡大など、様々な災害に見舞われているなか、介護サービス事業者でのBCP対策は最優先課題となっています。そこで今回は、緊急時においても欠かすことのできない排泄ケアのBCP対策について紹介します。

優先業務の考え方

BCP対策として、利用者の生命を維持するための最低限の業務の選定や、職員の出勤状況に応じてスムーズに対応ができるよう業務の優先順位を整理しておくことが必要です。

厚生労働省発行の「業務継続ガイドライン」には、優先業務の基準が表1のように示されていますが、**排泄ケアは優先順位の高い業務**に分類されています。

出勤率に合わせた交換パターン

出勤率に合わせて、使用アイテムを変えずに交換回数だけを減らす対策をとれば、緊急時もスムーズな対応が図れます(表2)。

排泄ケアにおける必要スキルと対策

排泄ケアに求められるBCP対策として、

表1：厚生労働省「業務継続ガイドライン」優先業務の考え方

職員数	出勤率30%	出勤率50%	出勤率70%	出勤率100%
優先業務の基準	生命を守るために必要最低限	食事・排泄中心、その他は減少・休止	ほぼ通常、一部減少・休止	ほぼ通常
食事の回数	減少	減少	朝・昼・夜	ほぼ通常
食事介助	必要な方に介助	必要な方に介助	必要な方に介助	ほぼ通常
排泄介助	必要な方に介助	必要な方に介助	必要な方に介助	ほぼ通常
入浴介助	清拭	一部清拭	一部清拭	ほぼ通常
機能訓練等	休止	必要最小限	必要最小限	ほぼ通常
医療的ケア	必要に応じて	必要に応じて	必要に応じて	ほぼ通常
洗濯	使い捨て対応	必要最小限	必要最小限	ほぼ通常
シーツ交換	汚れた場合	順次、部分的に交換	順次、部分的に交換	ほぼ通常

- ・ おむつのあて方、スキンケア、感染症対策、排便コントロールなどの研修や訓練の実施
 - ・ 緊急時には、夜間の対応を日中にも取り入れ交換時間を減らせるよう準備
 - ・ 導入アイテムを簡素化し、在庫を確保
 - ・ 全面使い捨て商品への切り替え
 - ・ おむつセンサーや排泄予測デバイスなど IOT・ICTの活用
- などがあげられます。

緊急時にスムーズに対応できるよう、交換回数を削減してももれないあて方や、スキントラブル予防のための知識を習得しておいたり、下痢便による全更衣で業務量が増えないよう排便コントロールをしておくなど、日常的に排泄ケアを整えておくことが必要です(表3)。

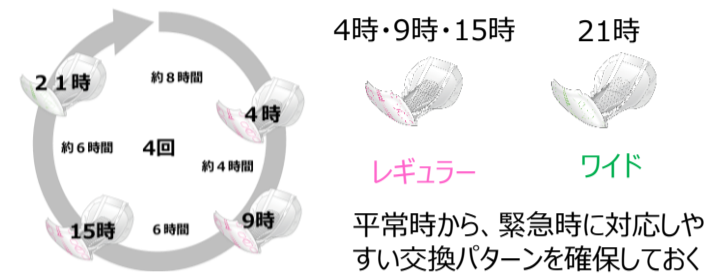
介護施設におけるBCP対策ブック

光洋では、「BCPとは」や「排泄ケアに求められるBCP」「感染症対策」などの内容を1冊で分かりやすく紹介した冊子を作成しました。ご要望がありましたら、担当営業までお問合せください。

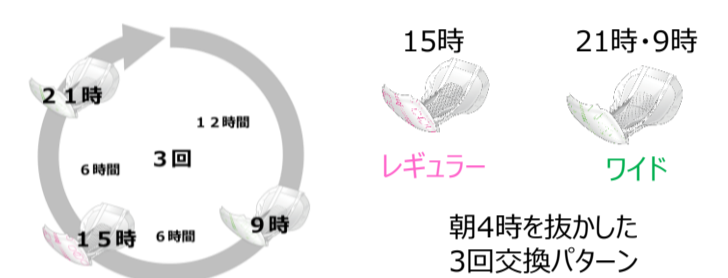
万が一のための備えは、平常時にしっかりとっておきましょう！

表2 出勤率に合わせた交換パターン

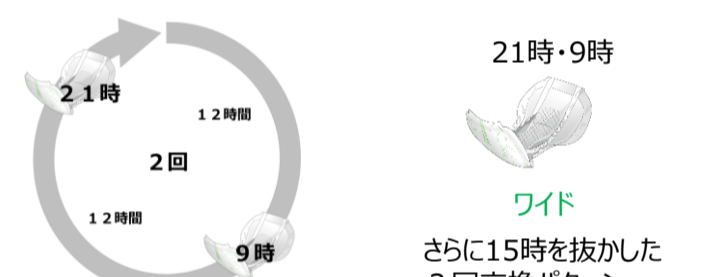
①出勤率100~70%のパターン



②出勤率70~50%のパターン



③出勤率50~30%のパターン



BCP対策ブックでは、個人防護具の着用や、嘔吐物の処理方法などの感染対策をマンガで紹介しています！

表3：排泄ケアにおける必要スキルと対策

必要スキル	内容	対策
おむつのあて方 排泄ケアの知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別アセスメント ・ あて方技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対応人数に合わせた交換時間・回数のマニュアル ・ 必要物品の確保 ・ 簡素化 ・ IOT/ICTの活用
排便コントロール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刺激性下剤の排除 ・ 自然排便を促す生活習慣 	多職種連携のチーム作成
スキンケア知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予防的ケアの徹底 ・ リスクアセスメント ・ スキントラブルへの知識 ・ スキンケア商品への知識 	必要物品の確保

光洋マイスター第18号取得おめでとうございます！

認定日 令和6年8月8日

施設名
医療法人社団 晴和会
介護老人保健施設 田上園

認定者 川上 明子さん
佐藤 学さん
石附 竜馬さん

研修で培った知識や技術を
基に、さらなるご活躍を期
待しております！！

Congratulations!!

自分たちのケアをアップデートしよう！

社会福祉法人禎人会

特別養護老人ホーム シンフォニー様

今回ご紹介するのは、北海道函館市にある特別養護老人ホームシンフォニー様です。

きっかけは1人の気づき

昨年、光洋が行ったオンライン排泄ケアセミナーに当時の排泄委員長だった上田さんが受講した際のことです。

最新の排泄ケアのあり方に衝撃を受け、「僕たちが“今”行っているケアは本当に合っているのか？」と疑問に感じたことがきっかけでした。

シンフォニー様は創業21年、職員の平均在職年数は8.4年です。新卒のスタッフから10年以上のベテランスタッフまで経験値はバラバラ。そのせいか独自のあて方を行っていたり、パッドの選び方や漏れに対する考え方も様々だったりと、ケアに統一感がない状況でした。

上田さんは「新人もベテランも皆が最新の正しい排泄ケアの知識と技術を身に付けて、誰もが同じケアを利用者様に提供することが大切だ！」と思い、抜本的な改善への取り組みを行うことに決めました。そして、施設の現状と職員の知識とケア方法をアップデートするためにはどの様に進めていけば良いか、と光洋へ相談してくれました。

目指す姿になるために

自分たちが変わっていくためには、皆が取り組みをする意義を理解・納得し、同じ目的・目標をもって、同じ方向に向かうことが大切です。

そのため、取り組み実施前に施設長、事務局長、介護主任、排泄委員と光洋で、現在のおむつの使用量や使用内容、コストなどをチェックしあい、課題を抽出し、今後の「目指すべき姿」について話し合いました。

目標を実現するための研修計画については、上田さんと話し合いを重ねて決めました。そして2023年4月、施設側から全職員へ、今後の目標と、排泄委員の役割について周知していただき、取り組みが開始されました。

インプット（研修）→アウトプット（実施）

1か月に一度、排泄委員を対象に以下の研修を行いました。※表①

そして、学んだ内容はすぐに現場に落とし込み、スタッフへ共有します。また、次回の研修後には「どの様な変化が起きたか、何に苦労したか」など各自の取り組み状況を報告しあうという形でPDCAを回しました。

表①

研修内容 (インプット)	実施内容 (アウトプット)
排泄のメカニズム	<ul style="list-style-type: none"> 尿量測定 尿取りパッドの再検討
失禁におけるスキンケア	<ul style="list-style-type: none"> 陰部洗浄、拭き取り方法の見直し 皮膚状態の観察、予防ケア
紙おむつの基礎知識 (基本のあて方)	<ul style="list-style-type: none"> アウターサイズの再検討 おむつのあて方見直し、実施
紙おむつの基礎知識 (応用のあて方)	<ul style="list-style-type: none"> 漏れの原因追及 あてづらいつけ方へあて方見直し、実施



取り組みを実施したことで起きた変化

排泄委員が率先して職員を指導することで、職員ひとり一人が自身のあて方手技を見直すようになり、「もれが起きたら大きめのパッドを使用する」習慣を改め、もれが起きた原因はなんでだろう？と考えるようになりました。

そして、皆が利用者様の状況などに応じて臨機応変な対応を行なえるようになり、おむつの使用状況に変化が起きました。

使用状況の変化

パッドの平均使用枚数

約30% down ↘

2022年7月～2023年6月



2023年7月～2024年6月



1日の交換回数：平均4回程度

1日1人が使用する平均枚数

5.5枚→3.8枚に減少

テープの平均使用枚数

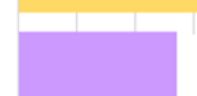
約17% down ↘

2022年7月～2023年6月
1か月の平均枚数



1日1人が使用する平均枚数

2023年7月～2024年6月
1か月の平均枚数



1.63枚→1.35枚に減少

1か月の平均使用コスト

約14% down ↘

シンフォニー様へインタビュー

排泄委員の活動をどのようにサポートしましたか？

前田主任：施設長はいつも現場の事は、私たちに任せてくれていますので私も上田さんの思いを実現できるように排泄委員の活動と現場職員の架け橋になるようにサポートしたぐらいです。あとは、信じて見守ることに徹しました。

職員が前向きにチャレンジできるよう、どんな工夫をしていますか？

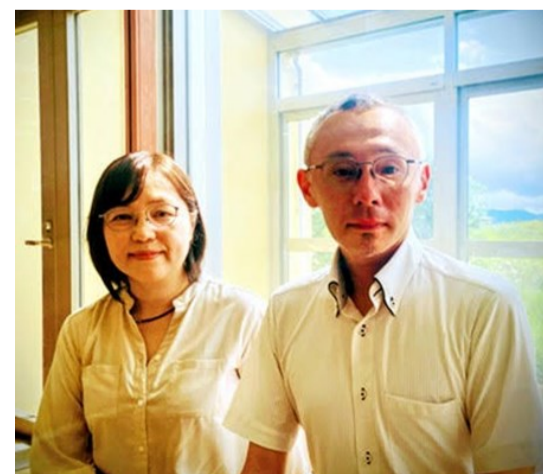
齋藤施設長：社内でもスキルアップ制度を取り入れたり、各種研修にも積極的に参加してもらっています。職員の取り組みは、利用者様の満足度にもつながりますので、何事にも恐れることなくチャレンジできるように施設全体でサポートしています。

最後に…

「今行っているケアが本当にその方に合っているのかな？」スタッフのそんな小さな“気づき”から、ケアの向上は始まります。

私たち光洋は、皆様の“気づきの芽”を育てていくお手伝いをしています。

是非排泄ケアでお困りの際はご相談ください。



前田介護主任

齋藤施設長